

天売島活性化を目指した観光客へのアンケート調査

北海道大学大学院 環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース
谷内 秀久

天売島は羽幌本土から西方24kmの日本海上に位置する離島である。西海岸は断崖絶壁で3月から8月には、8種類100万羽もの海鳥が繁殖地として利用する。そんな恵まれた自然環境を生かした自然活動（バードウォッチングなど）が観光客を魅了する。しかし天売島は過疎高齢化が進行、観光客も年々減少しているという問題を抱えている。そんな状況下で島民30代を中心とした「天売島おらが島活性化会議」という組織が結成され、今後の天売島を考え地域振興に力をいれ活動している。地域振興の1つ「観光」に力をいれる際、過去にアンケート調査は実施されたが単純集計のみで詳細な観光客の人物像は明らかにされてはいなかった。

この研究は、今後彼らが観光を考える上で重要な情報となる天売島を訪れる観光客の人物像をアンケート調査から明らかにすると共に、その結果を島民にフィードバックし、彼らの評価を分析、考察した。

アンケート調査は、2013年7月27日から8月29日（13・14日を除く）の32日間、島の旅館で住み込みバイトをしながらおこなった。対象者は、天売島から焼尻島・羽幌町へ向け出発する人とし、フェリーターミナル内及び付近にて、筆者が直接アンケート用紙（A4用紙表裏、選択・自由回答式）を渡し、書き終えた時点でその場で回収をおこなった。アンケートは371枚回収し、推定人数1241人の意見を聞くことができた。これは、筆者が調査中に立ち会えたフェリーに乗船した観光客の50%にあたる。

アンケート結果・分析では、単純集計の結果をクロス集計することで、訪れる観光客の社会的属性の特徴、行動様式や意識の違いから天売島に対する印象は異なることが明らかとなった。いくつか例をあげる。①天売島は道外から訪れる人が1/3いて、その内6割が飛行機、4割がフェリーであった。他の地域の詳しい比はわからないが、4割もフェリーで北海道に訪れ、天売島を目指すのは驚きであり、天売島独特な特徴であると考えられる。②天売島を訪れる前に、他の離島（利尻島や礼文島）を訪れる人は、2/3おり、彼らの評価は、離島経験がない人より評価が高いことが明らかとなった。その要因として、他の離島経験がない場合、何が天売島らしいのかが、わからない人が多い一方で、離島経験者は、何が天売島の特徴かを過去にいった離島経験を元に比べ、より天売島らしさを感じやすいことが明らかとなった。

この結果は、「天売島おらが島活性化会議」の代表を含む島民5人に伝え評価してもらった。アンケート結果と島民がイメージする客層は基本的に一致しているが、上記の①②などの島民が知らなかったことが明らかとなり、「今後の島の観光PRをする上で重要な情報である」という評価を受けた。この研究は、天売島を訪れる観光客の人物像を把握することができ、島民が地域振興をする際、役立つ材料となりえると考えられる。